

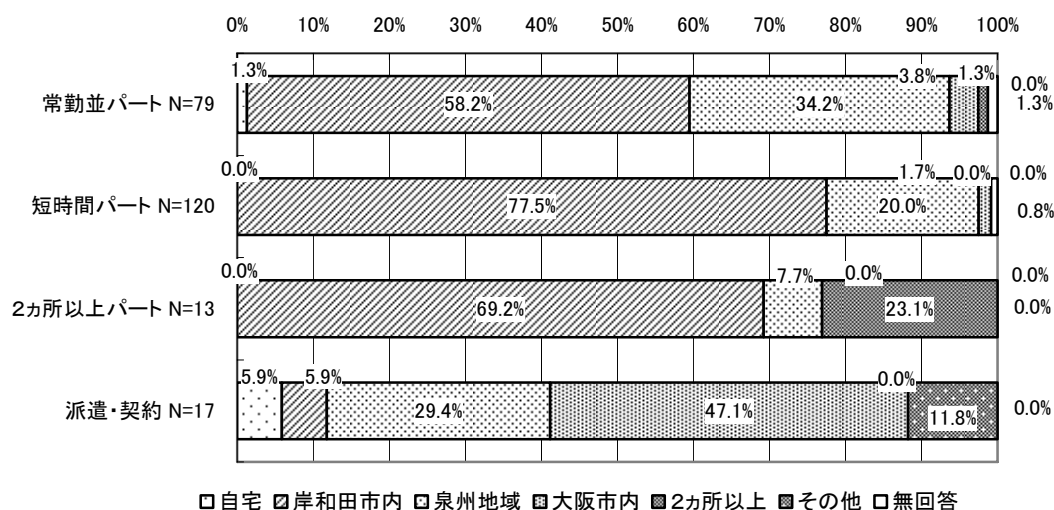
第3章 パートタイム・アルバイト、派遣・契約就業の問題

(1)事業所の実態 (問 15)(問 16)(問 17)

□「パート」は「岸和田市内」で、「派遣・契約」では大阪市内が最多

「常勤並パート」の 58.2%、「短時間パート」の 77.5%、「2 カ所以上パート」の 69.2%の就業地が「岸和田市内」である。「派遣・契約」では、「大阪市内」が 47.1%、次が「泉州地域」29.4%となっている。

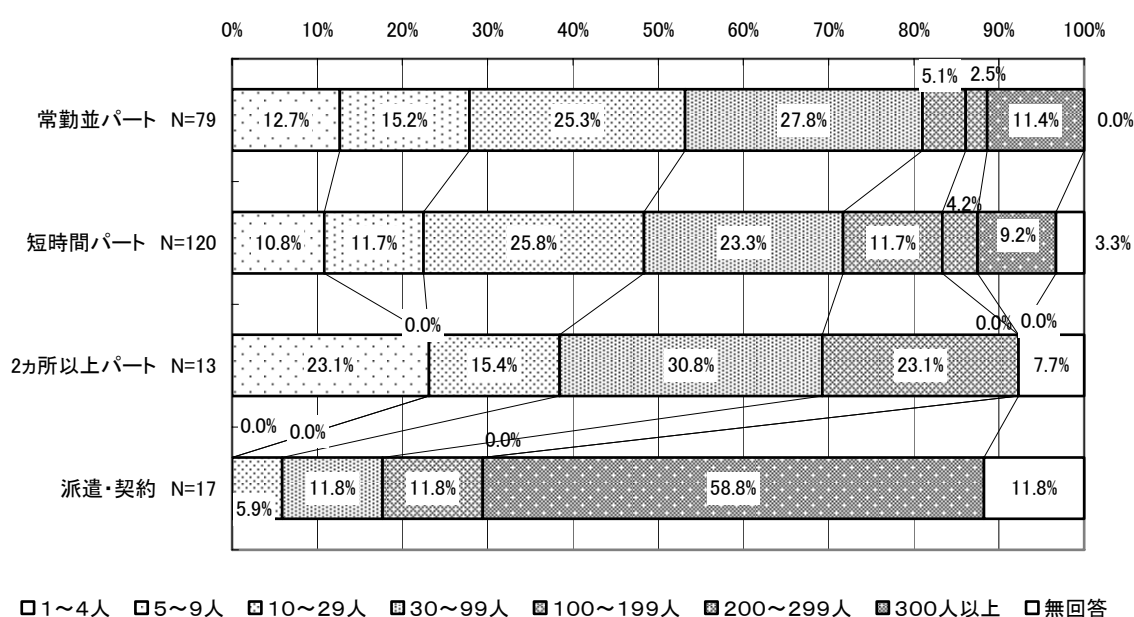
就業形態別の就業地



□事業所の規模は「パート」は「99 人以下」、「派遣・契約」は「300 人以上」が最多

「常勤並パート」では「30~99 人」(27.8%)、「短時間パート」では「10~29 人」(25.8%)、「派遣・契約」では「300 人以上」(58.8%) が最も多く、派遣・契約社員を雇用するのは規模の大きい事業所が多い。

就業形態別事業所の規模

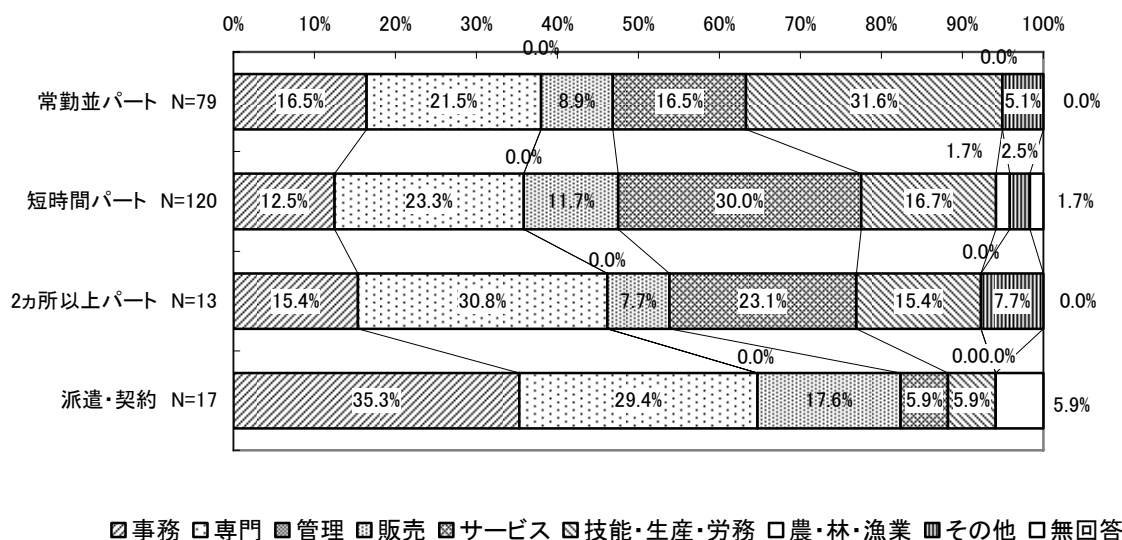


□「事務」の減少、「専門・技術」の倍増

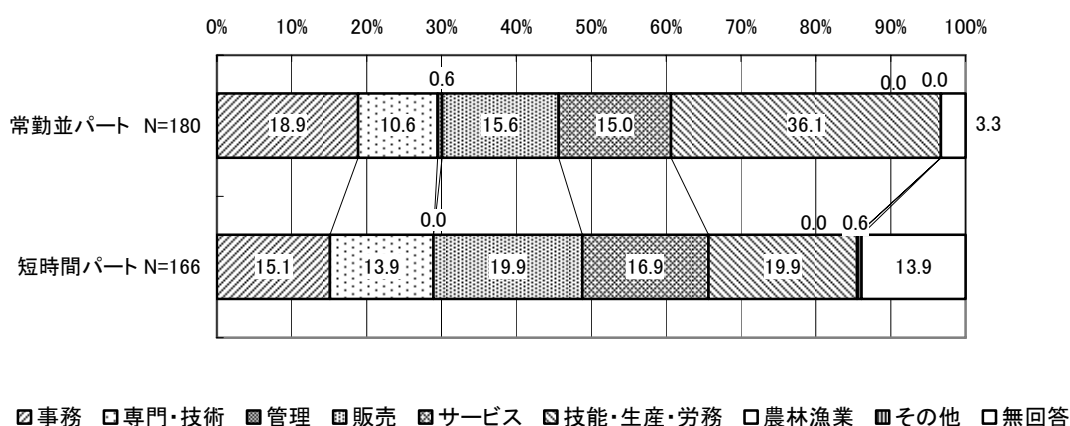
「常勤並パート」では、「技能・生産・労務」（36.1%→31.6%）が95年同様最も多く、「専門・技術」（10.6%→21.5%）は倍増している。「短時間パート」では「サービス」（16.9%→30.0%）が最も多く、次いで「専門・技術」（13.9%→23.3%）である。

「2ヵ所以上パート」では「専門・技術」（30.8%）「サービス」（23.1%）の順である。「派遣・契約」では、「事務」「専門・技術」と続く。

就業形態別職種



95 年就業形態別職種

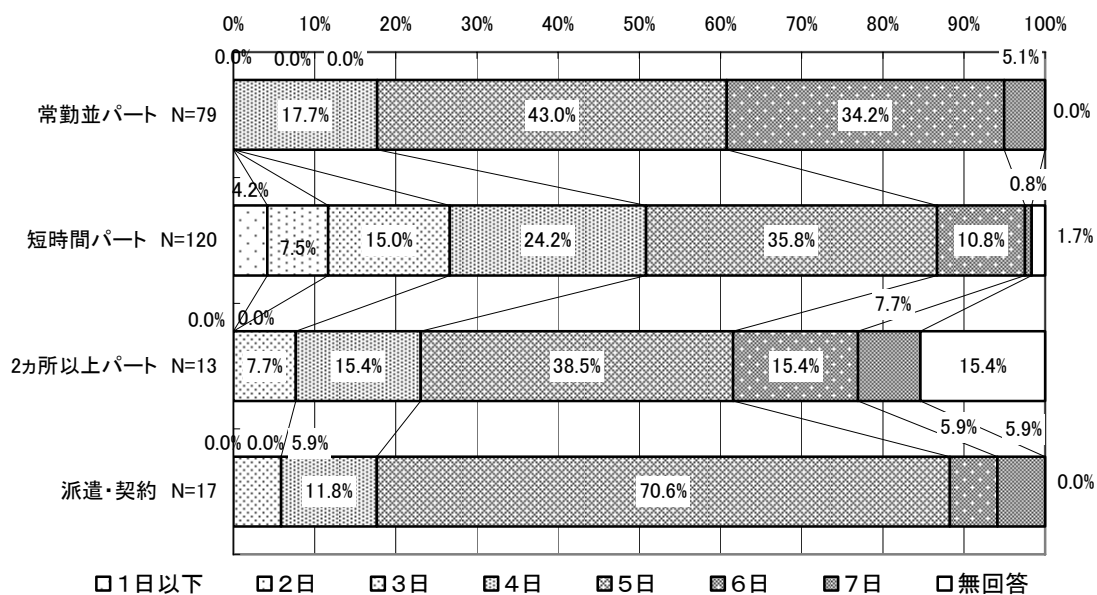


(2)就業の実態 (問 18)(問 19)(問 20)(問 21)

□週休 2 日制の定着、週「5 日」勤務が最も多い

1 週間の勤務日数を見ると、いずれの就労形態においても「5 日」の勤務が最多であり、「常勤並パート」、「短時間パート」、「2 カ所以上パート」ではそれぞれ約 4 割を占め、「派遣・契約」では約 7 割を超える。

就業形態別勤務日数



□「常勤並パート」はより長時間に、「短時間パート」は短時間に

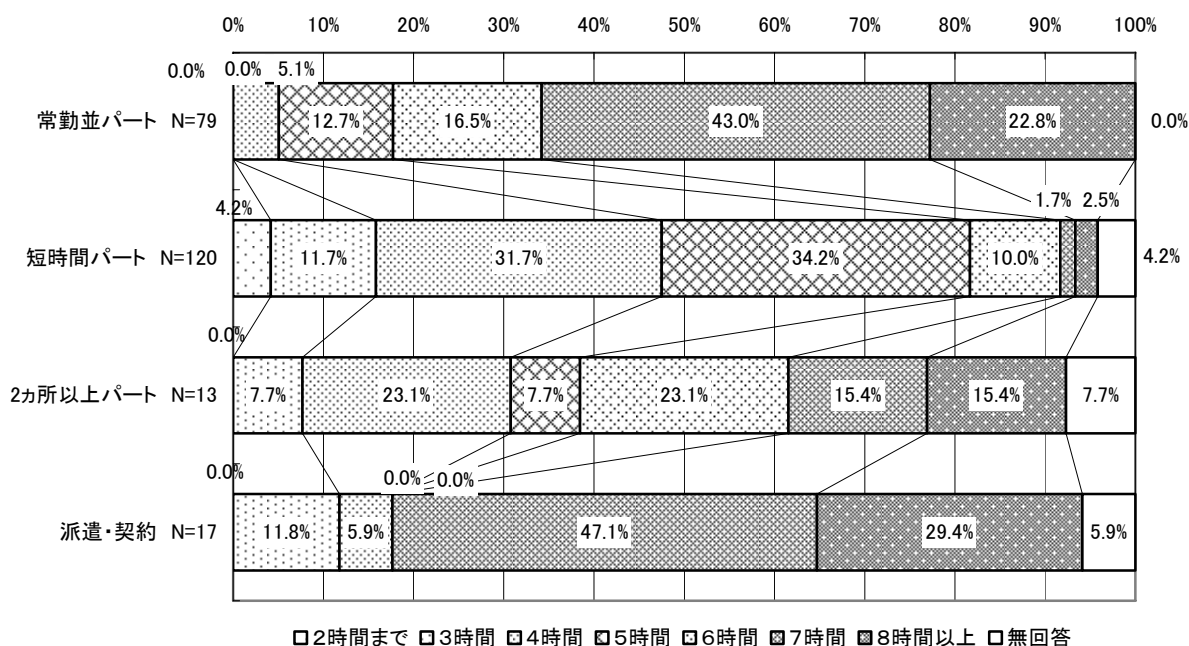
1日の仕事時間は、「常勤並パート」では「7時間」(26.7%→43.0%)、「8時間以上」(21.1%→22.8%)と長時間就業が増加し、「6時間」は(27.8%→16.5%)と減少している。

「短時間パート」では「5時間」(22.3%→34.2%)、次が「4時間」(21.2%→31.7%)で増加しているが一方「6時間」(18.1%→10.0%)「7時間」(10.2%→1.7%)は減少し、短時間で働く傾向に変わっている。

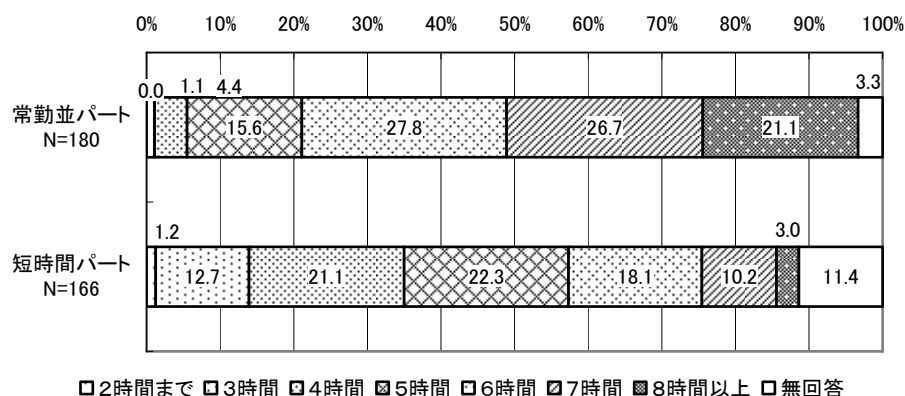
「2ヵ所以上パート」では、「4時間」「6時間」がともに23.1%、「7時間」「8時間」がともに15.4%である。

「派遣・契約」では「7時間」が47.1%、「8時間以上」が29.4%である。

就業形態別仕事時間



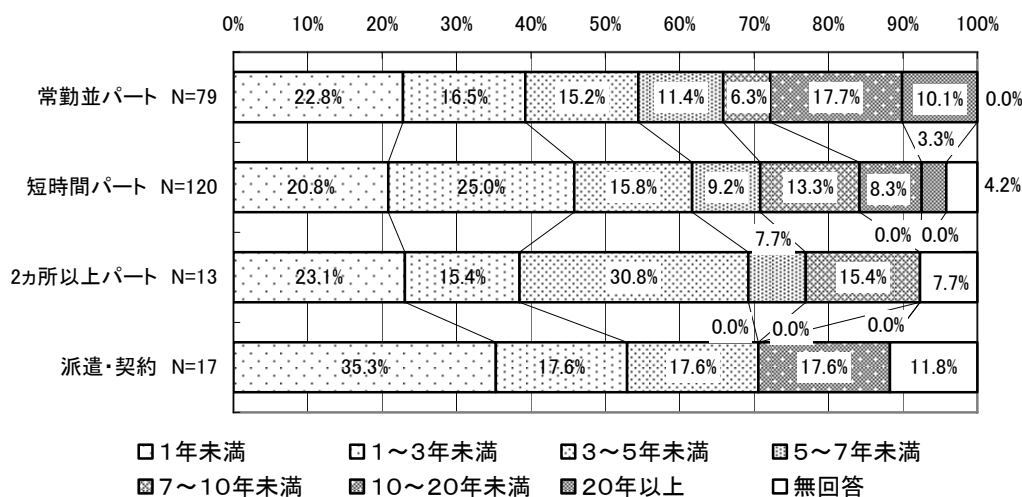
95年1日の就業時間



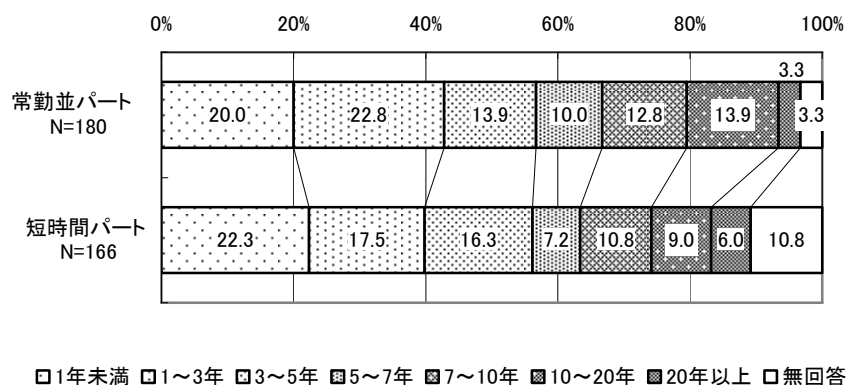
□「常勤並パート」の1割が「20年以上」勤続

「常勤並パート」では「1年未満」が(20.0%→22.8%)、「10～20年未満」(13.9%→17.7%)、「20年以上」(3.3%→10.1%)と、95年に比べ長期化傾向がみられる。「短時間パート」では「1～3年未満」25.0%、「1年未満」(20.8%)、「20年以上」(3.3%)である。「2ヵ所以上パート」では「3～5年未満」が30.8%、「1年未満」が23.1%である。「派遣・契約」では「1年未満」が35.3%、「1～3年未満」「3～5年未満」「10～20年未満」がいずれも17.6%である。

就業形態別勤続年数



95年就業形態別勤続年数



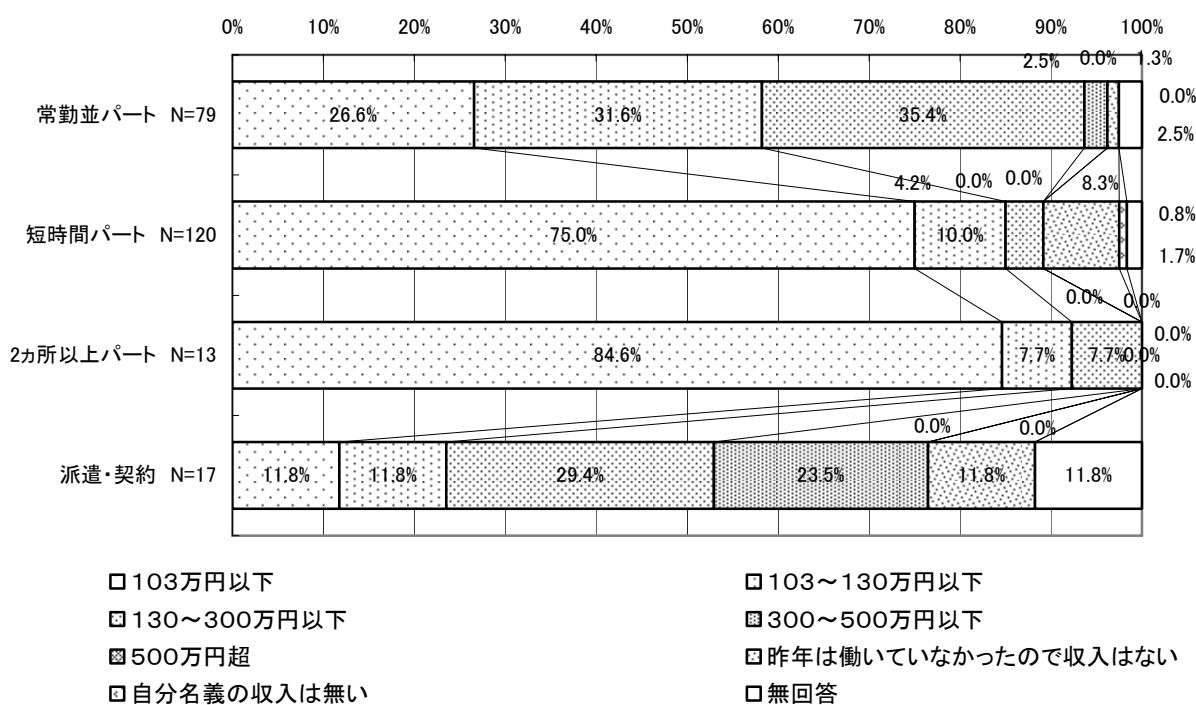
□「常勤並パート」「短時間パート」ともに 95 年より低収入に

「常勤並パート」の年収は、「130 万円超～300 万円以下」が 35.4%と最も多いが、130 万円以下を合わせると 93.6%である。95 年の「常勤並パート」の「300 万円以下」の 83.3%に比べて低収入に移行している。

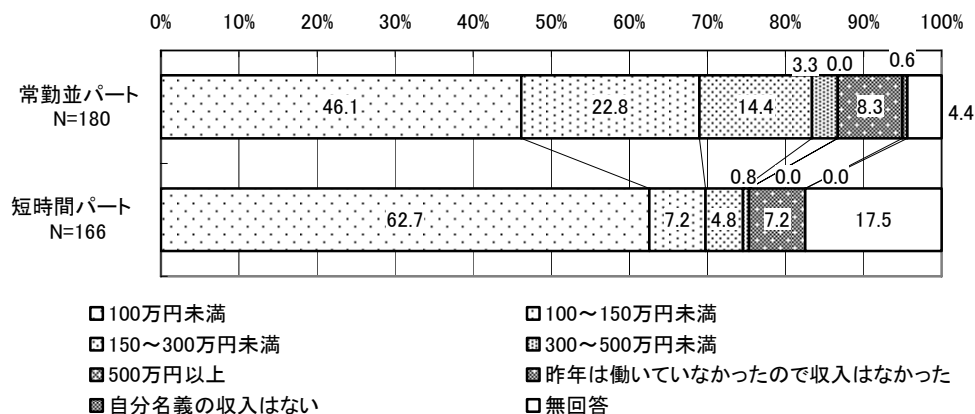
「短時間パート」では「103 万円以下」が 75.0%である。「103 万円超～130 万円以下」が 10.0%で、300 万円以下を合わせると 89.2%となる。95 年では 300 万円以下が 74.7%であり「短時間パート」も低収入の割合が増加している。「2ヵ所以上パート」では 84.6%が「103 万円以下」である。

「派遣・契約」は、「130 万円超～300 万円以下」が 29.4%、「300 万円超～500 万円以下」が 23.5%である。どの就業形態においても 500 万円以上は 0 である。

年収



95 年年収

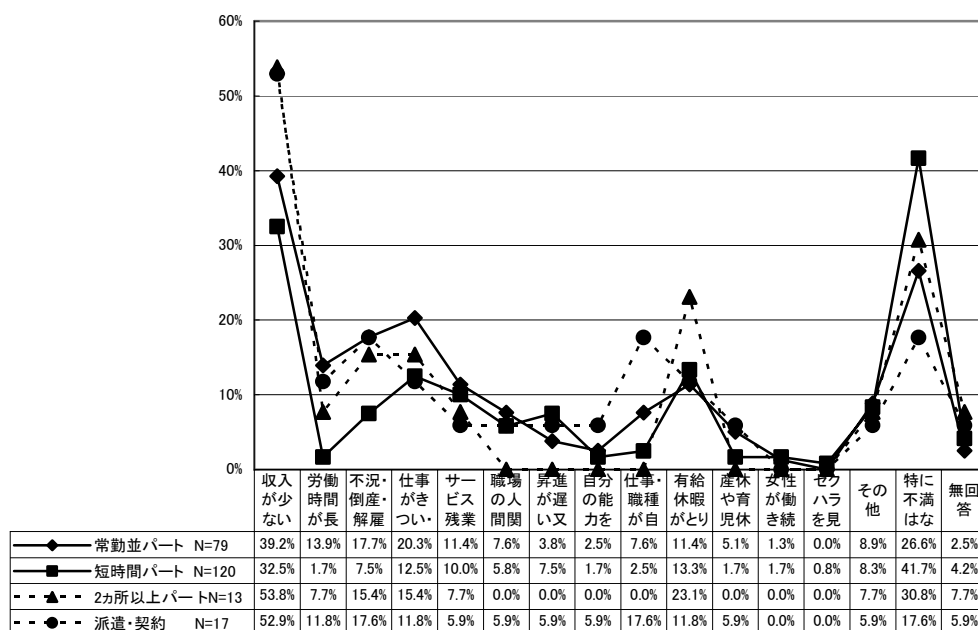


(3)職場での悩み、職場以外での悩み（問 23）（問 24）

□「収入が少ない」のが共通の悩み

「収入が少ない」は「常勤並パート」（39.2%）、「2カ所以上パート」（53.8%）「派遣・契約」（52.9%）で最も多く選んでいる。次に「特に不満はない」が「短時間パート」（41.7%）「常勤並パート」（26.6%）「2カ所以上パート」（30.8%）で多く、「正社員」や「公務員・教師」と比べ特徴的である。

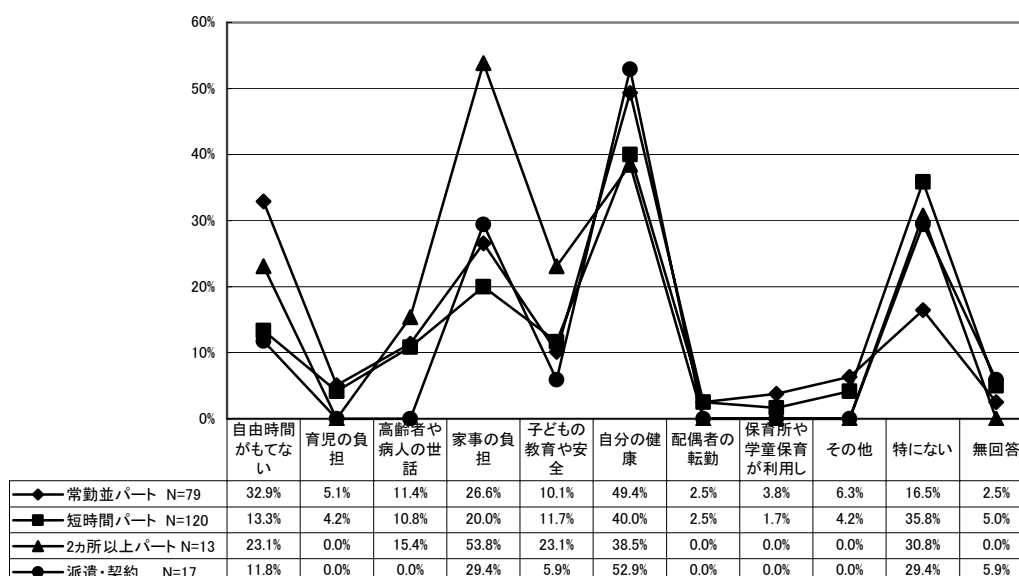
就業形態別職場での悩み



□「職場以外での悩みや心配」は「自分の健康」

「常勤並パート」は、「自分の健康」、「自由時間が持てない」の順に多く、「短時間パート」では、「自分の健康」、「特にない」を選んでいる。「2カ所以上パート」では、「家事の負担」が53.8%で最も多く、次が「自分の健康」であり、いずれも「自分の健康」への心配が大きな割合を占めている。「派遣・契約」では「自分の健康」「家事の負担」と「特にない」である。

就労形態別職場以外での悩み



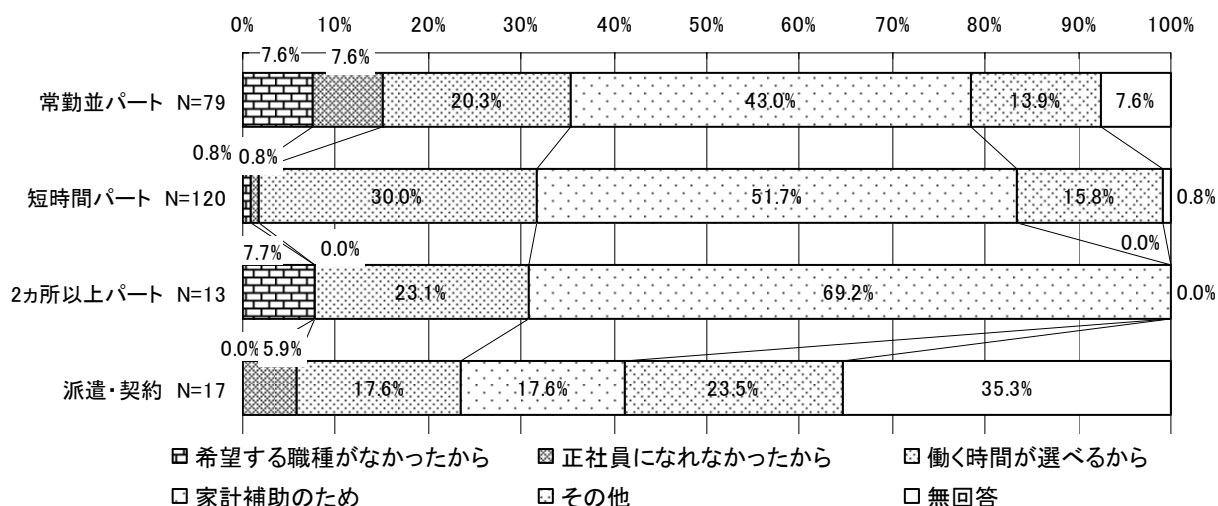
(4)働くきっかけ (問 25)

□働くきっかけは「家計の補助」「時間が選べる」と肯定的理由

就業のきっかけは、「家計補助のため」が、「2 ヶ所以上パート」(69.2%)「短時間パート」(51.7%)「常勤並パート」(43.0%)で最も多い。次いで「働く時間が選べるから」は「短時間パート」が 30%、「2 ヶ所以上パート」「常勤並パート」「派遣・契約」(17.5%～23.5%)であり、この 2 つの肯定的な理由を挙げている。

「常勤並パート」では「希望する職種がなかった」(7.6%)「正社員になれなかった」(7.6%)と、消極的理由を挙げている。

働くきっかけ理由

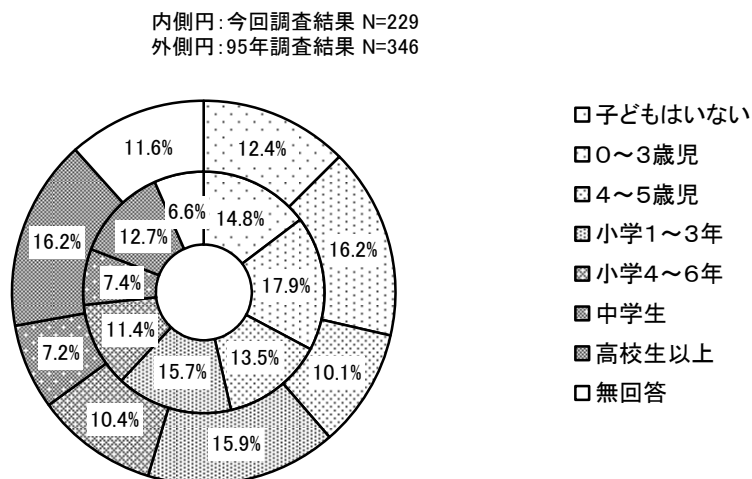


(5)就業時の末子年齢 (問 26)

□末子が就学前の就業が 3 人に 1 人

「子どもはいない」の 14.8%を除いて、最も多いのが「0～3 歳児」(16.2%→17.9%)、次が「小学 1 年～3 年」(15.9%→15.7%)、「4～5 歳児」(10.1%→13.5%)と続く。「高校生以上」(16.2%→12.7%)は、95 年では「0～3 歳児」と並び最も多かったが、今回は 3.5 ポイント減少している。

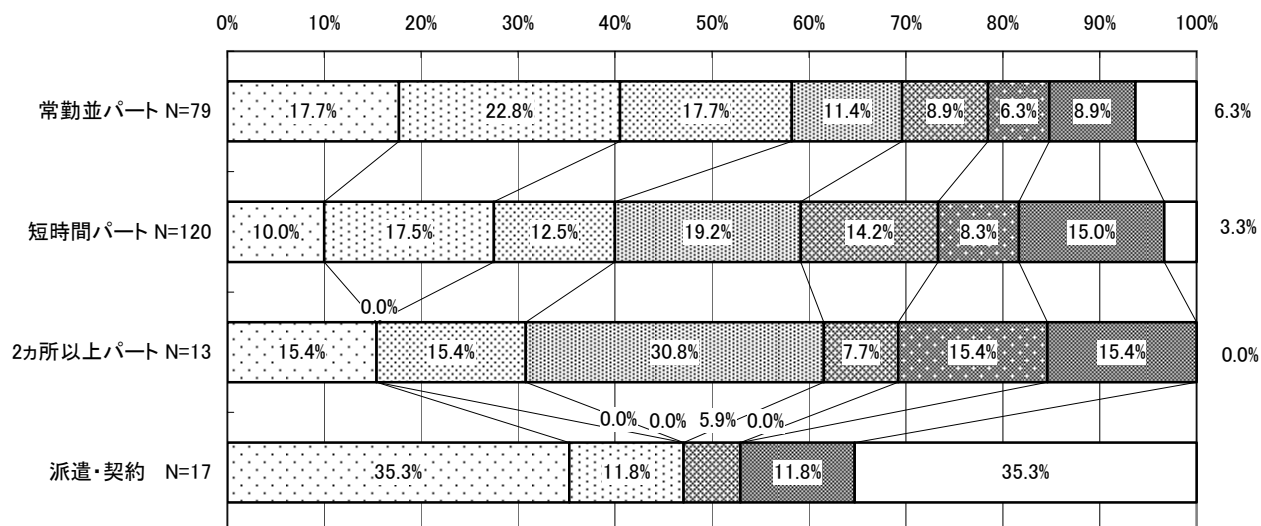
就業開始時の末子年齢



□「常勤並パート」は「0～3 歳児」で最も多く就業

「常勤並パート」は「0～3 歳児」での就業が 22.8%と最も多く、「2 ヶ所以上パート」(30.8%)と「短時間パート」(19.2%)は「小学1 年～3 年」の就業開始が最も多い。

就業形態別就業開始時の末子年齢



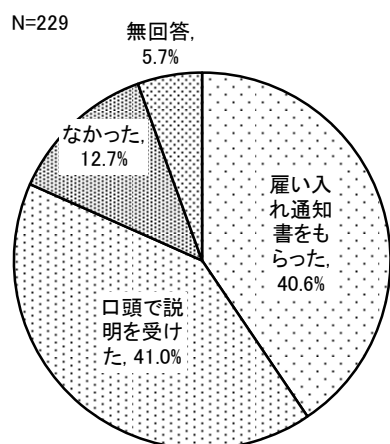
□子どもはいない □0～3歳児 □4～5歳児 □小学1～3年 □小学4～6年 □中学生 □高校生以上 □無回答

(6)労働条件の明示 (問 27)

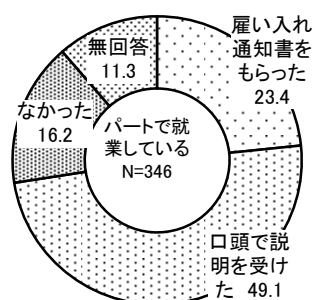
□わずかに改善が見られる労働条件の明示

「雇い入れ通知書もらった」(23.4%→40.6%)文書での明示が 17.7 ポイント増加しており、さらに「口頭で説明を受けた」(49.1%→41.0%)を合わせると 81.6%が労働条件の明示を受けているが、法的な義務づけにもかかわらず「なかった」が 12.7%あった。95 年の「なかった」(16.2%) よりもわずかに改善が見られる。

労働条件の明示



95 年労働条件の明示

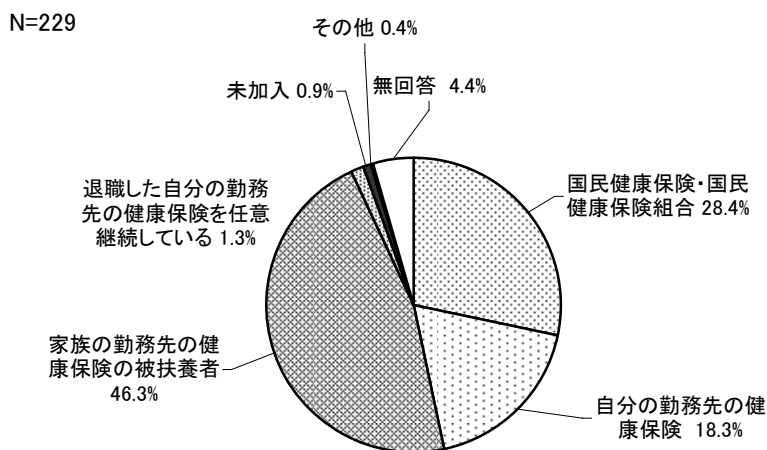


(7)健康保険の種類 (問 28)

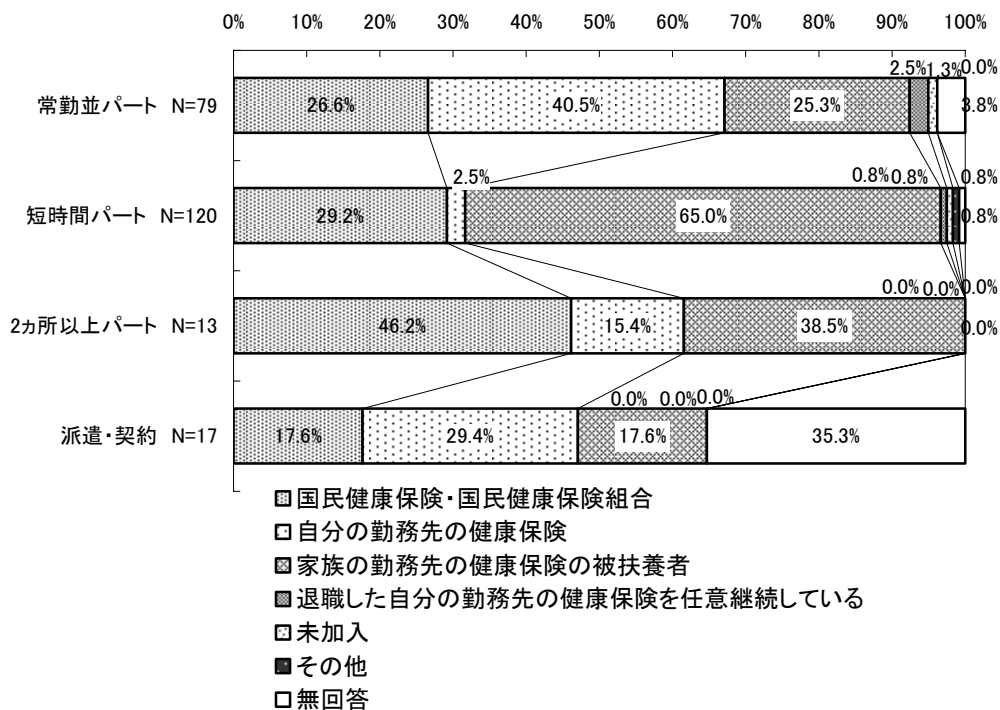
□「常勤並パート」で「自分の勤務先の健康保険」加入は4割

最も多いのが「家族の勤務先の健康保険」46.3%と半数近くを占め、130 万円の枠の中での働き方がうかがえる。次は「国民健康保険」の 28.4%で、「自分の勤務先の保険」の 18.3%と続く。「常勤並パート」では、「自分の勤務先の保険」(40.5%)、「国民健康保険」(26.6%)、「家族の勤務先の保険」(25.3%)である。「短時間パート」では「家族の勤務先の健康保険」の被扶養者が 65.0%を占める。

健康保険の種類



就業形態別健康保険種別

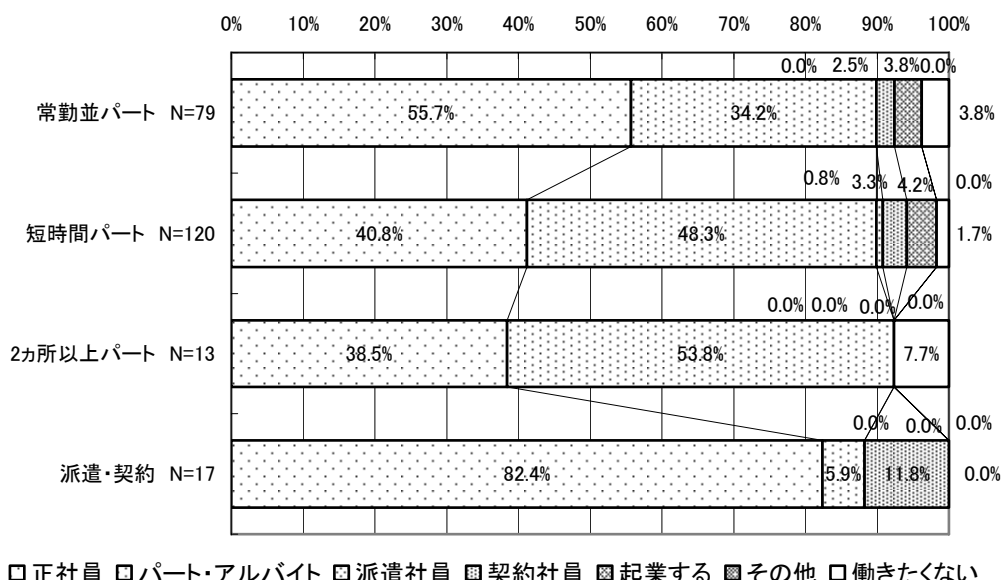


(8) 望ましい働き方と昇進 (問 9)(問 22)

□「派遣・契約」の 8 割強、「常勤並パート」の 5 割強は「正社員」を希望

最も望ましい働き方として、「正社員」を選択したのは「常勤並パート」の 55.7%、「派遣・契約」の 82.4% で、「パート、アルバイト」を選択したのは「短時間パート」の 48.3%、「2 ヶ所以上パート」の 53.8% である。「起業する」を選んだのは、「常勤並パート」の 3.8%、「短時間パート」の 4.2% のみであり、少数である。

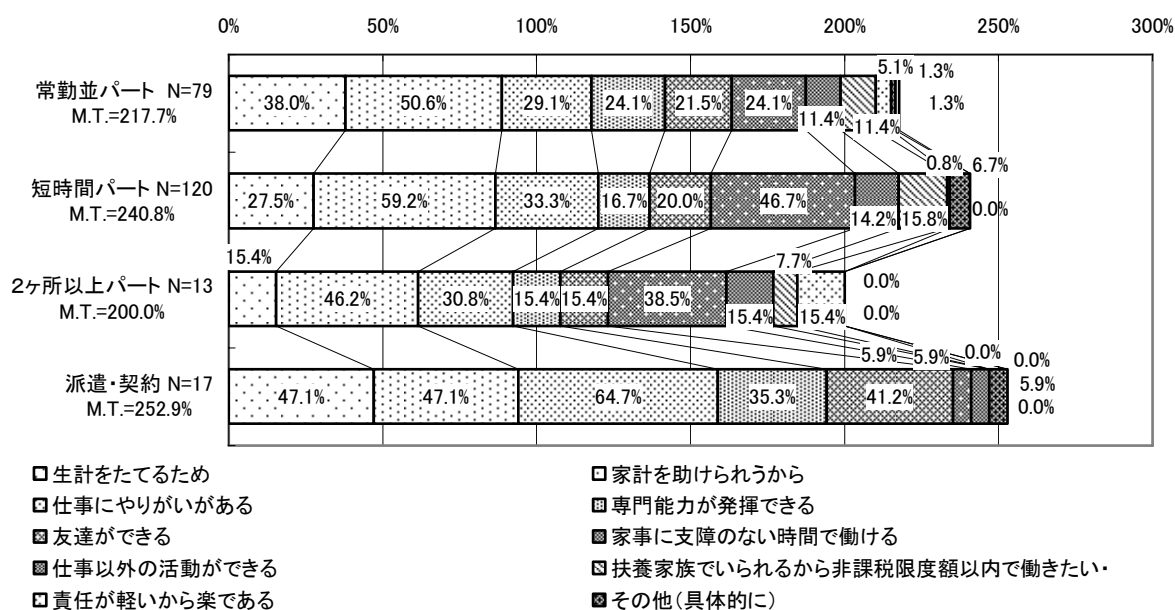
就業形態別望ましい働き方



□望ましい働き方選択の理由は「家計を助けられるから」と「家事に支障のない時間で働ける」

「常勤並パート」(50.6%)「短時間パート」(59.2%)「2 ヶ所以上パート」(46.2%) が「家計を助けられる」が最も多い。「派遣・契約」では「仕事にやりがいがある」(64.7%) が最も多い。また「短時間パート」は「家事に支障のない時間で働ける」が 46.7% である。

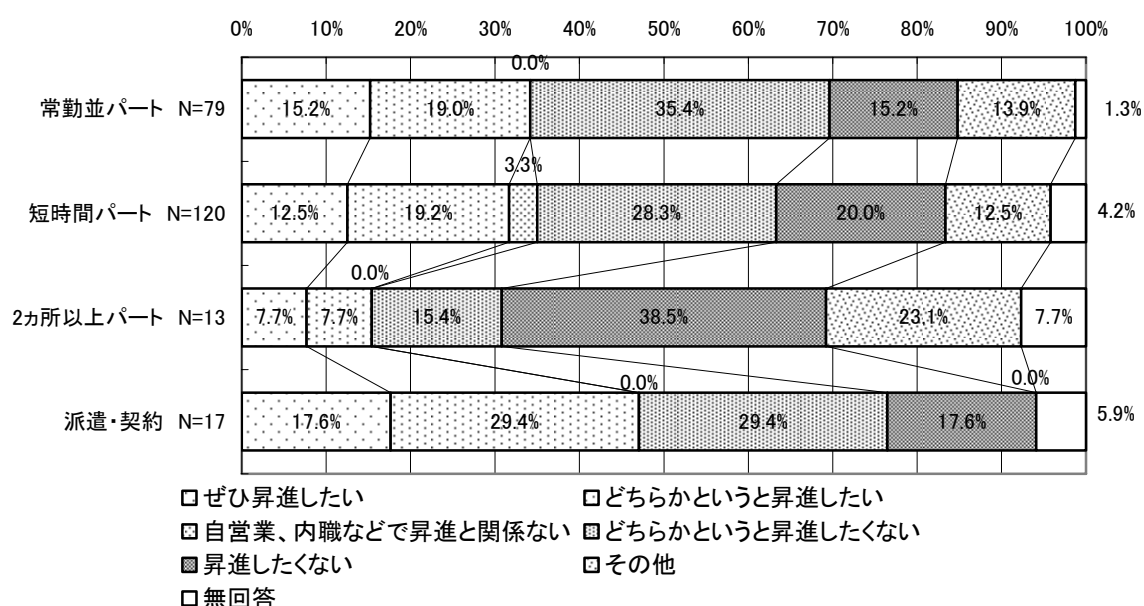
望ましい働き方を選ぶ理由



□「昇進したくない」「どちらかというとな昇進したくない」は「常勤並パート」で5割強

「ぜひ昇進したい」「どちらかというとな昇進したい」を合わせると、「常勤並パート」は34.2%、「短時間パート」は31.7%と3割を超える。一方「昇進したくない」「どちらかというとな昇進したくない」を合わせると「常勤並パート」は50.6%、「短時間パート」は48.3%と昇進には積極的ではないことがわかる。「2カ所以上パート」は「昇進したくない」「どちらかというとな昇進したくない」を合わせると53.9%である。「派遣・契約」では「したい」「したくない」が同率の47.0%である。

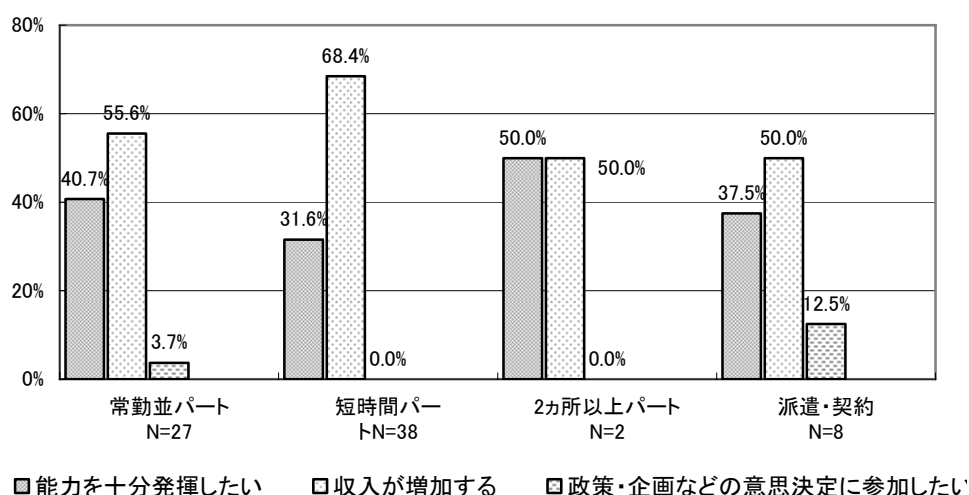
就業形態別昇進



□昇進したい理由は「収入が増加する」が5割以上

「収入が増加する」が「常勤並パート」(55.6%)、「短時間パート」(68.4%)「2カ所以上パート」(50.0%)、「派遣・契約」(50.0%)であり、次いで「能力を充分発揮したい」が「常勤並パート」(40.7%)、「短時間パート」(31.6%)、「2カ所以上パート」(50.0%)「派遣・契約」(37.5%)である。「派遣・契約」では「政策・企画などの意思決定に参加したい」が12.5%ある。

就業形態別昇進したい理由



□「昇進したくない」理由は「家庭との両立が困難」

「家庭との両立が難しくなるから」が「常勤並パート」(47.5%)、「短時間パート」(51.7%)、「2ヵ所以上パート」(42.9%)である。「派遣・契約」では、「責任があり、仕事が大変になるから」と「人間関係が難しくなるから」がともに37.5%である一方、「家庭との両立が難しくなるから」は25.0%で、仕事面での困難さをより多く挙げている。

就業形態別昇進したくない理由

